地震と鯰の関係は、平安時代にまで遡ることができるそうです。

江戸時代には多くの鯰絵が登場しました。当時は倒壊や出火など、一たび揺れると何もかもが失われました。

そうしたなか鯰絵は、風刺画やお守りとして急速に広まったと言われています。

1855年 安政二年10月2日の夜9時頃、内陸直下型地震が起きました。安政江戸地震、震度は6～7だったそうです。

こちらの絵は、助かった人の袂に馬の毛が付いていたことから、江戸の空を駆けた神馬に感謝する様子を描いたものです。

　「これご覧、私の袂にこんな毛があるよ、不思議だね」

　「神馬に乗られては、持ち上げることも、揺すぶることもできねぇ」

　（「鯰をこらしめる神馬」）